

フィールド  
レポーターだよ!!



2005年度 第1回調査

## 「エドヒガン調査」結果報告

フィールドレポーターの みなさま

エドヒガンの調査ご苦労様でした。どれだけ見つかるかと思っていましたが、45地点からの報告とは、さすがですね。でもいわゆる「直立」形のものが11地点、さらにそのうち自生らしいものは3地点ですか。やはり少ないですね。

サクラの仲間は人気があるために雑種を作り、品種を作り、とにかくよくわからないようになっていきます。本来は山のサクラはそれぞれが独立した種ですが、エドヒガンはいろいろな品種を作るための親に選ばれてきました。しだれる性質や変化をしやすい性質が強いのかもかもしれません。日本中に植えられているサクラであるソメイヨシノはオオヤマザクラとエドヒガンとの雑種といわれていますし、シダレザクラはエドヒガンからできた亜種といわれているのはご存知のとおりです。

でももともとのエドヒガンは、神大桜(山梨県)、石割桜(盛岡市)、薄墨桜(岐阜県根尾村)、久保桜(山形県長井市)などにいわゆる有名なサクラの木があります。そういう大木のエドヒガンを紹介している本から見ると、埼玉県、新潟県、兵庫県養父郡、福島県、京都府北桑田郡など、ほぼ北方系のブナ帯近くにあるようです。図鑑では、本州、四国、九州に分布としてありますので、分布はあるのですが、やはり涼しいところで元気で大木になるような性質なのでしょう。そういう意味では昔から今津町での分布が知られているのは、やはり本来の分布ということなのだろうと思います。

また同じエドヒガン系のなかでもその性質はかなり幅が広そうですね。花の色や樹皮に幅があるのも、きっといろいろな性質が混ざり合っている結果だろうと思えます。上にあげた全国のエドヒガンでも、色はかなりの幅があるようです。このわけの分からない幅の広さこそが、サクラに人気が集る秘密なのかもしれません。

今回は久しぶりの植物の調査でしたが、植物の融通無碍ぶりがよくわかるいい機会でした。植物が変化することを頭において、ほかの植物も見ただけがいいようにおもいます。(布谷 知夫)

# エドヒガン調査結果報告

F R 高田 正一

本調査は、昨年 10 月の「いまづ自然観察クラブ」の皆さんとの交流会において、湖西地区でエドヒガンの調査・保全に取り組んでおられる同クラブより、日本古来の桜であるエドヒガンの分布調査を滋賀県全域で行ってはその提案により、実施したものであります。

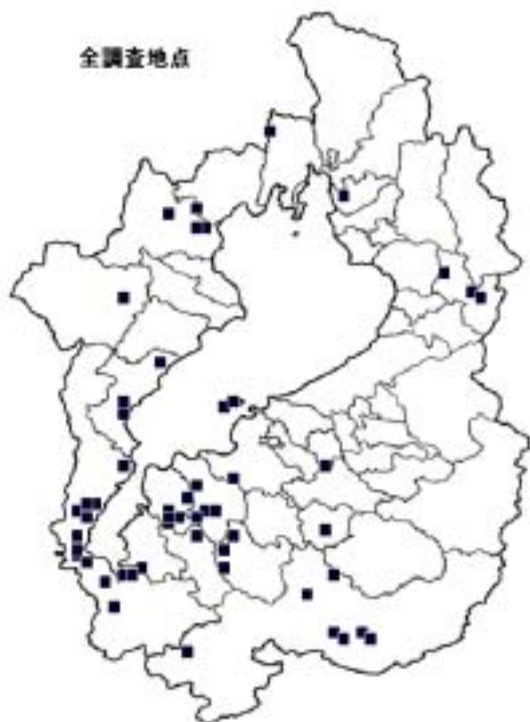
エドヒガン桜の同定は、花の形状(淡紅白色で直径は約 2.5cm でやや小型)、がく筒の形状(上部がくびれた壺型)、成木の樹皮の形状(浅く縦に裂け目が入る)、および樹形(直立する)より行った。

樹形が枝垂れているものは「シダレザクラ」、花が八重のものを「ヤエベニシダレ」とし、これらを含めて「エドヒガン群」として集計した。

## 1. 回答数および調査地点

今回の調査では、40名の皆さんから総数 75 通、55 地点について報告を頂きました。また、報告書に添付された記録写真は 64 枚に達した。

これら 75 通の報告のうちには、同一樹に対し 3 通報されたもの 1 組および 2 通報されたもの 2 組が含まれている。これら重複した報告 4 通を除いた 71 報告について集計を行った。



滋賀県下 33 市町村中 15 市町村について調査され、残る 18 市町村については、今回は未調査となった。

調査市町村名	未調査市町村
高島市、志賀町	余呉町、浅井町
大津市、高月町	湖北町、虎姫町
米原市、蒲生町	びわ町、長浜市
守山市、野洲市	彦根市、多賀町
湖南市、栗東市	近江町、豊郷町
草津市、甲賀市	甲良町、秦荘町
東近江市、 近江八幡市	竜王町、安土町
西浅井町	日野町
	木之本町
	愛知川町
	能登川町

## 2. エドヒガン群桜の分布

今回調査された滋賀県下 15 市町村におけるメッシュコード別分布は 45 地点においてエドヒガン群桜が確認され、このうち 31 地点については、それらの樹形は「枝垂れ」であり、シダレザクラおよびヤエベニシダレであった。

樹形が「直立」するものは 11 地点で観察されたに過ぎなかった。

Fig. 3 エドヒガン群の樹形

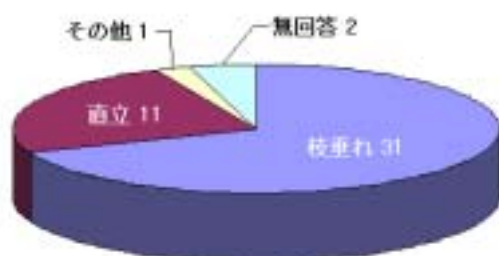


Fig. 2 エドヒガン群桜分布図



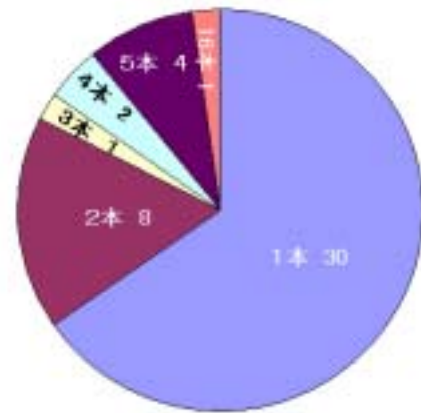
エドヒガンの確認された地点	自生 or 植栽
米原市池下 グリンパーク山東 グリンドーム西側	植栽
米原市池下 三島池南のボランティアセンター南側の堤	植栽
甲賀市甲賀町神 2664 西ノ口集会所と佛性寺の間	不明
湖南市西寺六丁目 常楽寺山門前	不明
野洲市小篠原 旧中仙道沿い 稻荷神社鳥居の脇	植栽
大津市本堅田 6 丁目 JR堅田駅西 500m	植栽
志賀町木戸百林 大川の上流湖西道路側道	自生
守山市川田町 川田公園 川田大橋脇	植栽
高島市今津町 酒波寺	植栽
高島市今津町酒波 727 酒波寺奥林境内	自生
高島市今津町深清水 淡海湖水口より 200m 東の林道沿い	自生

上記のほか、今津町バイパス道 3 箇所「エドヒガン桜」との説明文のついた桜のあることが報告されているが、がく筒の形状ほかエドヒガンの特徴についての記載が無いので、再度確認が必要であろう。

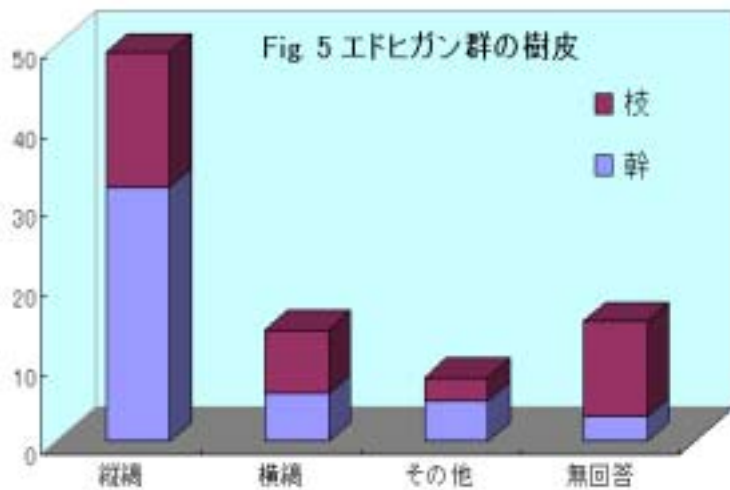
なお、守山市川田町の川田公園の若木数本は、桜の日本三大銘木として有名な岐阜県根尾村の薄墨桜の子供であり(川田町自治会長談)、典型的なエドヒガンである。

直立樹形のエドヒガンは 11 地点で少なくとも 35 本が確認され、一ヶ所でもっとも多数確認されたのは、米原市池下、三島池南のボランティアセンター南側の堤で、ここに 16 本のエドヒガンが確認された。

Fig. 4 エドヒガン群の見つかった本数



### 3. エドヒガン群桜の特徴



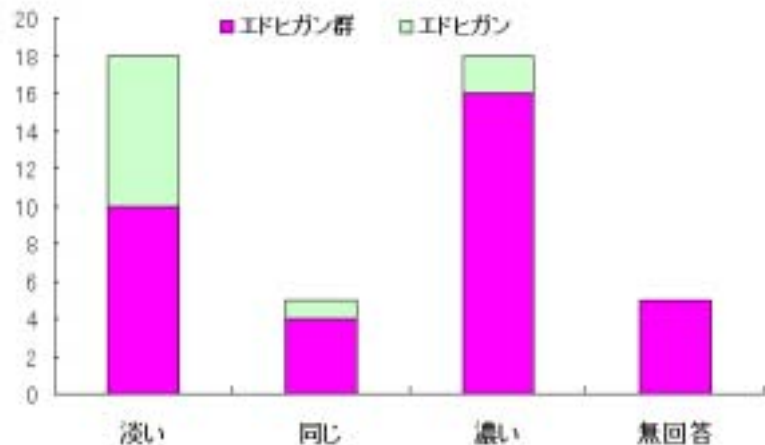
今回見出されたエドヒガン群桜の幹の樹皮については、大部分の樹が縦縞であり、横縞の樹は全て樹高3m以下の若木であった。

また、46 報告中 40 報告でがく筒の形状および花の大きさについては壺型および小型であり、残り6報告では未記載であった。

ソメイヨシノと比較した花の色に関しては、エドヒガンについては淡いものが多かったが、濃いものも2例報告された。

またエドヒガン群全体について見ると、ソメイヨシノと比較して濃いものが多く、ベニシダレ、ヤエベニシダレが含まれるためと思われる。

Fig. 6 花の色 (ソメイヨシノと比較して)



#### 4. エドヒガン群桜の生育している環境

エドヒガン群桜の見出された環境については、Fig. 7に示すとおり、神社・寺の境内に最も多く見出された。

また、その場所の日当たりならびに水はけは、おおむね良好な場所であった。

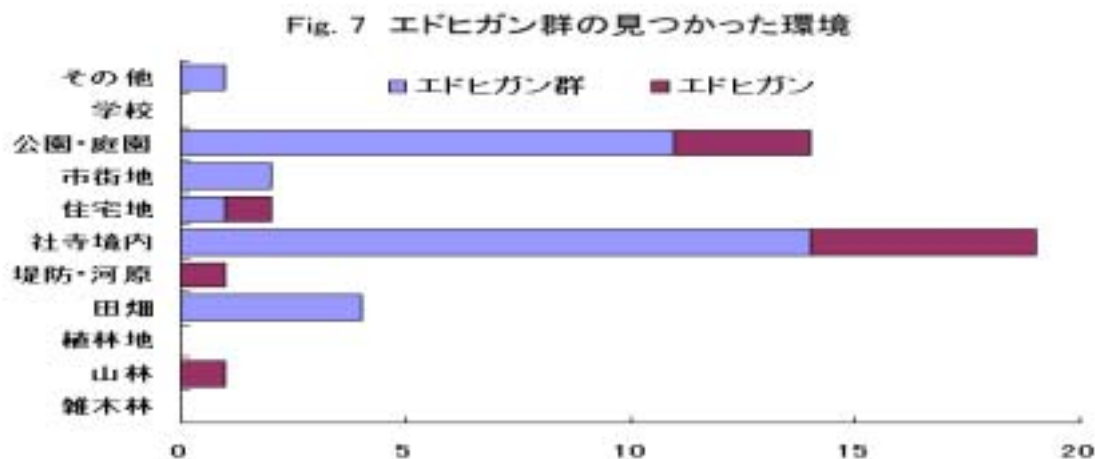


Fig. 8 見つかった場所の日当たり・水はけ

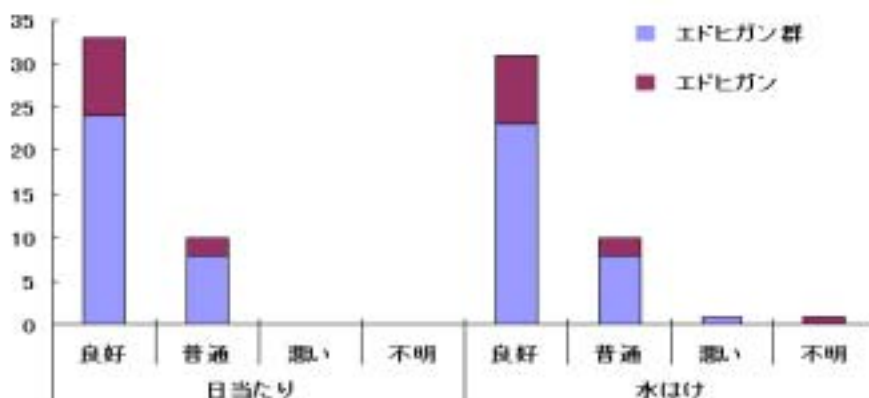


Fig. 9 エドヒガン群桜 植栽or自然  
( )内はエドヒガン

#### 5. 見出された桜は植栽されたものかあるいは自生したものか

見出された桜が自生したものか、植栽されたものかを判断することはなかなか難しい問題であるが、見出された環境から推測すると、今回の調査では、自生したものは少なく、5報告のみにとどまった。

## 6. まとめ & 謝辞

今回の調査は、滋賀県下全域を目標としたが、最終的には滋賀県下 33 市町村のうち約半数の 15 市町村についての調査にとどまった。このことは、フィールドレポーターの皆さんの居住域とも関連しており、今回未調査となった地域については、機会を見つけて、出張調査などを行うことが望まれる。

今回の調査では、対象地域が湖南地域の比較的市街化された地域に集中したこともあり、エドヒガン群桜の中でも比較的に観賞価値的に派手な桜であるベニシダレ、ヤエベニシダレなどが多く報告され、本調査の主目的である日本古来の桜であるエドヒガンに関する報告は少なく 11 件であった。

これまで、湖西地域に関しては、「いまづ自然観察クラブ」の皆さんによって詳細な分布調査が行われているが、今回の調査で、数は少なかったが、湖東・湖南地域においても、植栽された可能性が高いものの、エドヒガンの分布が確認された。

最後に、本調査を実施するに当たり、有益なるアドバイスならびに各種参考試料の提供を頂いた「いまづ自然観察クラブ」の皆さんに心より御礼申し上げます。

以上



フィールドレポータースタッフによる予備観察会

2005 年度第 1 回

## エドヒガン 調査 の ご 案 内

春一番が吹いた後は冬に逆戻りで、まさに「春は名あみの風の寒去よ」がピッタリの早春です。皆さん、お元気でお過ごしでしょうか。

『掲示板(第 34 号)』でお知らせしましたように、湖西地区でエドヒガンの調査・保全に取り組んでおられる、いまづ自然観察クラブの提案により、春の調査は日本古来の桜であるエドヒガンを取り上げることになりました。

近年、植栽にはソメイヨシノが好まれるため、エドヒガンはあまり見られなくなったといわれます。ただ、いまづ自然観察クラブ顧問の松見氏によれば「古木、大木の桜、あるいは薄墨桜と呼ばれる樹には、エドヒガンがあるのではないかと」と。

そこで、県下各地に広がるフィールドレポーターの力を発揮して、エドヒガンの分布を調べようと思います。一般的にサクラは多種、多品種で種の判断が困難ですが、エドヒガンはがく筒に特徴があるので、花を見れば見分けられるそうです。お花見を兼ねて、まずはあちこちの桜を見てまわりましょう。名木、古木を訪ねるのも一手ですし、山に生える桜は可能性が高いそうです。

さて、エドヒガンの一番の特徴は、花の基部(がく筒)がとっくりのように膨らんでいることです。桜を見かけたら、まずがく筒に注目してください。その際、花を手にとって見られない場合が多いので、双眼鏡を用意するか、風などで落ちた花を探すとよいでしょう。

採集した花またはがく筒は押し花にして(アイロンを使って簡単に押し花にできます)調査票に貼ってください。また、出来れば樹や樹皮、花などを写真に撮って送っていただけるとありがたいです。

フィールドレポーターの調査は、“あると思えば無い、無いと思えばある”のが常です。エドヒガンが見つかることを期待しますが、花の時期が短いのでうまく探せないかもしれません。そういう場合も、探した場所を明記し、苦労話を含めて気づきを記入して調査票を送り返してください。よろしく願いいたします。

**なお、調査期間は 3 月 10 日 ~ 5 月 15 日とします。**

今津では例年 4 月上旬から咲き始めるそうです。  
南の方ではそれより早いと思います。

## エドヒガンの特徴(ソメイヨシノとの比較)

	エドヒガン		ソメイヨシノ	
幹		樹皮は暗灰褐色で、 <u>浅く縦に裂け目が入る。</u> (老木になるほど顕著になる) 樹形は直立するものと、枝垂れとなるものがある。		樹皮は灰色で、紫色が加わり、 <u>横縞が入る。</u>
花 花弁を取り除いた花の縦断面		淡紅白色5片の花の直径は約 2.5cm でやや小型。 がく筒は紅紫色で丸く膨らみ、上部がくびれた <u>壺型</u> である。		花の直径は約 3 ~ 3.8cm がく筒は紅紫色で、 <u>筒型</u> である。
		ソメイヨシノより、少し早めに開花する。		



2005年度第1回調査 **エドヒガン調査票**

1. 調査者名 ( )  
2. 調査日時 月 日 午前・午後 \_\_\_\_\_ 時 天 候 ( )

3. 調査場所

住所(詳しく): \_\_\_\_\_ 市・町 \_\_\_\_\_

目印 (例 神社の西 100m など)

メッシュコード ( )

4. 場所の環境

(1)土地利用: 雑木林 山林 植林地 田畑の周り 堤防・河原  
寺社の境内 住宅地 市街地 公園・庭園 学校  
その他( )

(2)日当り: ・良好 ・普通 ・悪い ・不明

(3)水はけ: ・良好 ・普通 ・悪い ・不明

5. エドヒガンは見つかりましたか( はい いいえ ) \*「いいえ」の人は設問6へ

(1)何本ありましたか ( 1本だけ 複数 \_\_\_\_\_ 本 )

(2)樹の様子

・胸の高さの幹周り ( \_\_\_\_\_ cm )

・樹の高さは、およそ ( \_\_\_\_\_ m )

・樹の形 ( 枝が垂れる 枝垂桜 枝は上を向く )

(3)樹皮の模様

・幹は ( 浅く縦に裂ける 横じま模様 その他 \_\_\_\_\_ )

・枝は ( 浅く縦に裂ける 横じま模様 その他 \_\_\_\_\_ )

(4)花の様子

・咲き具合 ( つぼみ ちらほら 五分咲き 満開 散り始め )

・がく筒 ( とっくり状に下が膨らむ 普通の筒状 )

・花の大きさは、ソメイヨシノと比較して ( 小さい 大きい )

・花の色は、ソメイヨシノと比較して ( 淡い 濃い )

(5)その樹は、人が植えたものでしょうか

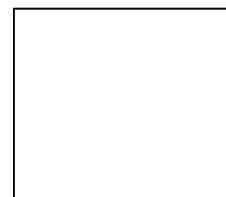
( 植えられたもの 自然に生えたもの 不明 )

(6)その桜に別名がついていますか(例えば「清水の桜」)

( )

6. 調査をして気づいたことや、感想などを自由に書いてください。

また、樹や樹皮、花の写真が撮れましたらお送り下さい。



花を押し花にしてここに貼って下さい(花弁は無くてもよい)